復興支援異分野連携ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ 「食と農業支援部会」
被災地域の付加価値農業支援 （農業イノベーション）6 次産業化支援から植物工場支援まで、農業イノベーションの技術募集　報告書

開催日時：平成 24 年 2 月 28 日（火）16:00～18:00
開催場所：秋葉原 UDX 4F UDX オープンカレッジ
参加人数：参加者数：24 名

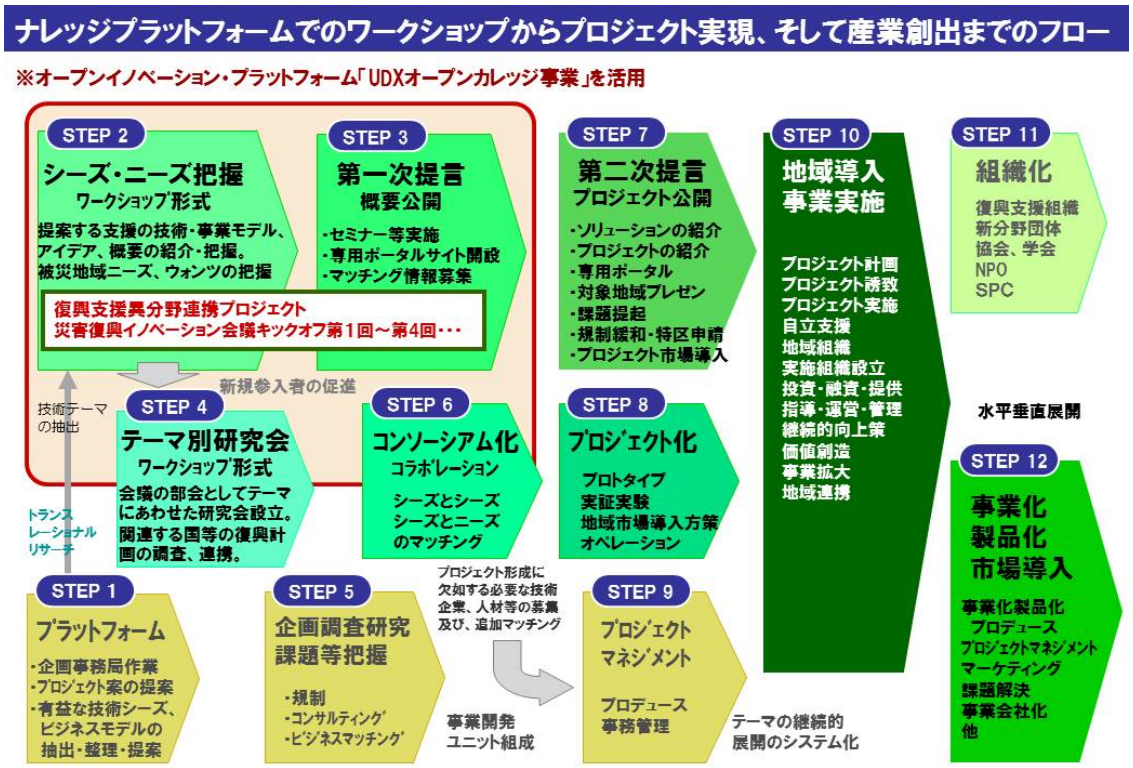
【開催概要】
復興支援異分野連携プロジェクト会議の中の農業支援のための部会。農業部会、食の部会、ITの部会など、付加価値をつけるために連携してプロジェクト化していく。
今回は3社からプレゼンテーションをしていただいた。

株式会社ロッシュの五嶋氏からは微生物汚泥処理システムのご提案。脱臭効果や農業用肥料としても使え、汚泥焼却コストもかからないので経費も割安であるという。また環境・安全・安心を理念に掲げる福島工業株式会社の小川氏からは、震災においてニーズがあった急速凍結、省エネ対策を施した冷蔵庫や食材の管理、誰でも調理できるクッキングシステムの提案をされた。RKK Japan Ltd.の芳野氏からは岩手県沿岸部に進んでいる「緑のくじら計画」について発表された。防波堤となる場所に防波堤を作るのではなく、市民の憩いの場となるようなくじら型の丘を作る計画を進めたいとのこと。

仙台や石巻、大槌などの被災地域からのご参加、大阪、京都、加西、福井等の遠方からのご参加を頂いた。 エネルギーや植物工場関連、食関連の企業のほか、メディア系（新聞やテレビ）、コンサルティング会社や市長、ITや建築業界、NPO やボランティアの方々のご参加をいただき、文字通りの異分野連携プロジェクトの会議となった。

今後、自然エネルギーを活用した植物工場に加え、加工工場や食の付加価値化、流通、販路、資金調達のソリューションなどを加えながらプロジェクトを進めていく。現地が自立化できるようなモデルを作っていく。今後は具体的なプロジェクトのチーム組成のための活動へと移行する予定。

【会議内容詳細】
◆会議概要説明
新産業文化創出研究所　所長　廣常啓一
1.「復興支援異分野連携プロジェクト」概要
復興支援異分野連携プロジェクトでは、復興のマスタープランに基づき現地ニーズ調査や支援したい企業のシーズをまとめ、第一次提言とする。その中から研究会の部会を発足させ、そこからプロジェクト化し、第二次提言。現地が自立化できるような組織を立ち上げ、プロトタイプとして事業を行う。これは最終的に横展開できいるようにする。



2. 本会議の構想

再生可能エネルギーを植物工場などに活用し、地域地産のものとして地域に還元していく。機能性食材、メニュー開発や物流、また金融ソリューションなども組み合わせていく。

また、仮設住宅のような空き部屋を利用した植物工場やセントラルキッチン、共同食堂などを組み合わせ、コミュニティを形成できるようなものを作るグループも募集している。公的な資金の組み合わせも検討中。

3. 学校へのミニ植物工場の導入

今までの農業とは違う形の植物工場での生産となるため、小学校などにミニ植物工場を導入し、子供達の育成にも力を入れていく。未来を担う子供達であり、自分たちの時代にはそれが当たり前の農業のあり方となっているかもしれない。そこに使われている新しい技術などを学ぶ次世代イノベーターの育成、また地域や親との合意形成のきっかけとなるようなプログラムとする。ここに賛同、参画を希望する企業や団体も募集している。

◆　株式会社ロッシュ　技術開発部長　五嶋　環氏

微生物汚泥処理システムの提案。汚泥焼却のコストがかからない分、経費も安くて済む。機械に汚泥を入れ、汚泥分解を行う。そこで精製された水は脱臭効果が高い。また、農業利用用の活性水ともなり、肥料としても使える。処理コストは従来型の1／3カットできる。

◆　福島工業株式会社　小川雅治氏

福島工業は環境・安全・安心を理念に掲げる外食産業などの厨房冷蔵庫やスーパーなどのオー

プンショーケースを作っている企業。今回の被災地における仮設店舗に、急速凍結可能な冷蔵庫を行った。またスーパーに復興支援のための義援金つきRO自販機の導入なども行った。この他、食材のトータルな温度管理を行うことの出来るシステムやインターネットを通じてだれでも一流シェフなみの調理ができるシステムなどを扱っている。

◆ RKK Japan Ltd. 代表取締役 芳野 敬子氏

岩手県沿岸部（ひょっこりひょうたん島のモデル地区といわれるところ）に進んでいる「緑のくじら計画」について発表。防波堤の代わりに、市民の憩いの場となるようなくじら型の丘を作る計画を進めたいと、企業やNPOなどが集まり企画推進中とのこと。市民参加型のイベントや作業などを盛り込み、そこを観光スポットとすることによってエコツーリズムなどを組むこと、また食堂などと組み合わせることなどを計画している。

◆ 福島原発の前の会場に、木質のフローティング施設を作る提案。フローティングの中は年中無料のアイススケート場やプール。若者の憩の場であり、漁場、貝・海草を作る場ともする。

◆ サスティナブルに継続させるための方策についての質問

⇒技術及びハードに加え、ビジネスの成立性を高めるためのビジネスモデルと一緒にし、その経済性を向上させる。また、行政などの資金をイニシャルコストとして導入することによって、そのリスクを軽減する。（廣常）

以 上